

レジェンド・オブ・ザ・シーズ アジアクルーズの通年配船について

シンガポール(2008年7月2日)・ロイヤル・カリビアン・インターナショナルのCEO兼社長、アダム・ゴールドSTEIN氏はシンガポールで行われたアジア・パシフィック地域の統括オフィス開設1周年記念パーティに出席し、2009年11月より、レジェンド・オブ・ザ・シーズのアジアクルーズを通年行うことを発表しました。

ゴールドSTEIN氏は発表のなかで「アジア・パシフィック地域は当社にとって大事なエリアです。ラブソディ・オブ・ザ・シーズによる第一回目のアジアクルーズは皆様に好意を持って受け入れられ、意を強くすることができました。年間を通じて当社のクルーズを提供できるのは喜ばしい限りです。」と話しました。

ロイヤル・カリビアン・インターナショナルは、米国ロイヤル・カリビアン・クルーズ社が所有するクルーズ会社。レジェンド・オブ・ザ・シーズは、2007年-2008年の先シーズンにラブソディ・オブ・ザ・シーズが拠点港としたシンガポール、上海、香港発着のクルーズに加え、横浜や釜山を発着するクルーズも行う予定。

アジア・パシフィック地域の統括マネージャー、ラマ・レバプラガダ氏は「2009年冬のシーズンからはよりコースも充実し、アジアでは今までなかった本格的なアメリカンクルーズをいつでも楽しんでいただけます。」と述べました。

レジェンド・オブ・ザ・シーズは2008年12月からアジアにやってきて、ロイヤル・カリビアン・インターナショナルとして2年目となるアジアクルーズを行います。シンガポール出航16本、上海出航5本を予定しています。

アジアでのクルーズ人口は2010年には150万人に上ると見込まれています。また東南アジア各国からクルーズ旅行に行く旅行者は毎年5%ずつ増えており、2020年には82万人になるとの試算もあります。アジア各国が経済発展するにつれて、クルーズは目新しい旅行形態として注目されつつあります。各国の港湾局もクルーズ船誘致のためインフラの整備を進めており、クルーズ運行会社にとっても大型客船が接岸できる港は拠点港として魅力があります。

ロイヤル・カリビアン・インターナショナルは常に業界をリードするクルーズを提供してきました。2008年5月には世界最大16万トンクラスの3隻目としてインディペンデンス・オブ・ザ・シーズが、イギリスのサザンプトン港をホームポートとしてデビュー。さらにクルーズ船の最大記録を大幅に更新する22万トンのオアシス・オブ・ザ・シーズも2009年12月のデビューを予定し着々と建設が進められています。

以上